

記入例

- ◆ 写真や表、イラストを使ってわかりやすく！
- ◆ ページ数が増えても構いません。

1. 企業の概要

ふりがな	おおさかかぶしきがいしゃ		
企業名	大阪株式会社		
ふりがな	役職名	おおさか たろう	生年月日 (大正・昭和・平成) XX年XX月XX日
(役職・氏名) 代表者	代表取締役	大阪 太郎	
本社所在地	〒〇〇〇-〇〇〇〇 大阪府中央区大手前2丁目〇番△号 ※町字番地等は省略しないでください。 <input type="checkbox"/> 登記簿上の本店所在地と異なる場合はチェックをしてください。		
府内の製造拠点	〒〇〇〇-〇〇〇〇 大阪府中央区大手前2丁目〇番△号	府内製造工場 計 2ヶ所	
府外の製造拠点	〒〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県△△市□□町×-×-×	府外製造工場 計 2ヶ所	
海外の製造拠点	<input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> タイ <input checked="" type="checkbox"/> ベトナム <input type="checkbox"/> ミャンマー <input type="checkbox"/> インド <input checked="" type="checkbox"/> 韓国 <input type="checkbox"/> 北米 <input type="checkbox"/> 欧州 <input type="checkbox"/> その他 ()		
HP アドレス	国内	https://www.osaka.genki..co.jp/	
	海外	直接海外取引	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可
資本金	1,000万円	従業員平均年齢	46.5歳
従業員数	前期末 50人	前々期末	48人
主たる業種 (日本標準産業分類) https://www.soumu.go.jp/toukuei_toukatsu/index/seido/sangyo/R05koumokusetsumei.html	※直近期の売上高に占める割合の最も大きい業種が、日本標準産業分類における「E 製造業」又は「G 情報通信業」のうちの「組込みソフトウェア業」であることを確認し、チェックしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 製造業 <input type="checkbox"/> 組込みソフトウェア業 ※製造業の場合、中分類を記入してください。 中分類 (金属製品製造業)		
沿革 (簡潔に記入してください。)	創業	1950年 4月	設立 1950年 9月
	<ul style="list-style-type: none"> ・1950年4月 浪速商店創業 ・1950年9月 浪速株式会社改組設立 ・1955年9月 大阪株式会社に社名変更 ・1960年1月 大阪市●●区に本社移転 ・1976年5月 本社第二工場完成 ※簡潔に記入してください。		
連絡担当者 本賞の連絡窓口となる方を記入してください。	部署	総務部 総務課	ふりがな おおさか じろう
	役職	総務課長	氏名 大阪 次郎
	TEL	06-xxxx-xxxx	FAX 06-xxxx-xxxx
	E-Mail	〇〇〇〇@△△.co.jp	
郵送物送付先 (本社所在地と異なる場合)	〒 * 本社所在地と異なる場合にご記入ください。		

2. 経営方針・理念

* 経営方針・理念・社是、経営目標など明文化されているものや、明文化していなくとも日々の事業活動の中で、従業員に周知徹底していることなどを、ご記入ください。

3. 経営環境 (SWOT)

【機会】貴社製品・技術とそれを生かそうとする市場環境 貴社製品・技術が生きる市場環境、他社よりも優位にビジネスを進めることができる環境	【脅威】今後、経営を進めていくうえで障害となりうる市場環境 今後の経営、貴社製品・技術にとって障害となりうる環境（政治的、市場競争、代替技術など）
【強み】経営上、他社に比べて優位なところ 【機会】【脅威】から見える、貴社の優位性について記入ください	【弱み】今後の経営上、強化したいところ 【機会】【脅威】から見える、貴社の改善点、強化したい点を記入ください

4. 主要な取扱製品 (商品・技術)

* 直近期決算の売上割合の高い順に①主要取扱製品を3つと②各々の売上高に占める割合を記入してください。

①主要取扱製品 (商品・技術)	②売上高割合 (%)
〇〇関連機器	40%
▲▲機器	20%
■ ■製品	10%

5. 主な保有設備

* 貴社の主要な保有設備について、5種類以内をめどに記入してください。

名 称	能 力	メーカー・型番	台数
射出成型機	180 t	東洋機械・p0001-tk	3台
マニシングセンター	2, 100mm × 1, 300mm × 600mm	庄田鉄工・G〇〇〇 1	2台
テーブルベンダー	φ0. 3mm～φ80mm	オリジナル	1台

6. 主な販売先

* 直近期決算の売上割合の高い上位3社の①販売先名と②各々の売上高に占める割合を記入してください。

①販売先名	②売上高割合 (%)
〇〇株式会社	30%
株式会社▲▲▲工業	20%
株式会社●●商事	10%

7. 技術力に関する事項

◎前回の受賞以降の新展開について

* 令和7年度（大阪ものづくり優良企業賞 2025）の受賞企業のみ、記入してください。
（詳しくは応募要領「Ⅲ 3. 前回の受賞以降の新展開について」をご覧ください。）

- (1) 前回受賞時と比較して、新技术や新製品があり、既に販売・宣伝・流通等していること
新技术…前回受賞時と異なる方法、素材、サイズ 等
新製品…前回受賞時と異なる用途や機能を備えた製品（耐久性の向上やサステナブル化等を含む）
- (2) 前回受賞時と比較して、新たな市場に属する技術や製品があり、既に販売・宣伝・流通等していること。
「新たな市場」とは、前回受賞時に対象となっていなかったニーズ・属性（法人／個人、業種、行動特性等）を持つ顧客層を対象とする市場を指す。

※ その技術や製品について、応募時点で企画段階や生産に向けた設備導入、特許取得段階等に留まる場合は対象外。

* 補足資料 無 有【No. 】

①セールスポイント

* 貴社の製品・技術など市場に向けて最もアピールしたいポイントを記入してください。
（100字以内）

- 貴社が誇る優位点（具体的・定量的に）
- 製品や技術によって、貴社トータルでどのようなメリットが生まれるか
- 大手企業との取引実績、受注先の状況、市場での評価、シェア など

②主要な技術や製品の独自性について記入してください。

* 独自性については、ノウハウや技術で他社にはない特長が分かるように、説明してください。

- 分かり易い説明のため、写真や図等を活用・掲載してください。
- 専門用語は避けて、素人でも理解できるレベルで分かり易い言葉で記載してください。
- 他社製品・技術や業界水準に対する強みや違いを表示などし、具体的な表現でお示しください。
- 次に、その強みを実現する根拠となる技術、機械設備、人材スキルなどを、ご記入ください。
- 最後に、独自性を維持するための、戦略、知的財産の使用状況、ノウハウの有無などについて、ご記入ください。
- 知的財産を有する場合は、「8. 知的財産の活用に関する事項」へもご記入ください。

※ 下記は記載例ですので、下記の記載方法に限定されるものではありません。
自社をアピールしやすい方法でご記入ください。

（記載例）

①最初に、自社の事業内容について簡単に説明をします。その際、下記の内容について記載いただくと分かり易いです。

- ・ 事業内容
- ・ 得意とする業界や主な取引先
- ・ 加工できる材質の種類（アルミ・鋳物・真鍮、プラスチックなど）の幅の広さや対応サイズなど、自社製品・技術の特徴

②自社が製造する製品の写真、図等を掲載し、製品の説明も併せて記載します。

製造する製品が最終製品ではなく部品等である場合は、最終製品についても説明を記載します。
(どんな製品に使用されているのか、自社製品が最終製品のどの機能を果たす部分なのかなどの特徴を説明します)

自社が製造する製品が複数ある場合や、使用される最終製品が複数ある場合は、可能な限りご記入ください。

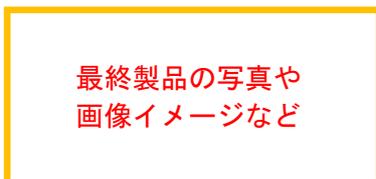
【当社製品●●】



自社製品の写真

※複数の製品を製造している場合は、可能な限り全部の製品についてご記入ください。
※製品の特徴なども併せて記載します。

【当社製品●●が使用されている▲▲社の「■ ■ ■」】



最終製品の写真や
画像イメージなど

※自社製品が使用されている最終製品の画像や説明を記載します。

③自社の独自性（強み）について記載します。

また、その独自性を実現する技術的根拠も併せて記載してください。

事例があれば、その事例を用いて詳細を記載いただいても結構です。

審査員がイメージしやすいように、製品の構造や製造工程など、図や写真を入れてください。

▼独自性の記載例

- ・材質（幅広い種類に対応など）
- ・体制（試作から対応、一貫生産、外注が一般的な工程の内製化）
- ・業界シェア率
- ・自社製品・技術の工夫・特徴など（従来品・他社製品・既存技術との違い）
※他社にはないちょっとした工夫や特徴でも結構です。
（例）「特殊な加工、従来製法の変更を行った結果、耐久性や修理・交換時のコストメリットに効果がある」など
- ・提案力（VA 提案、VE 提案）

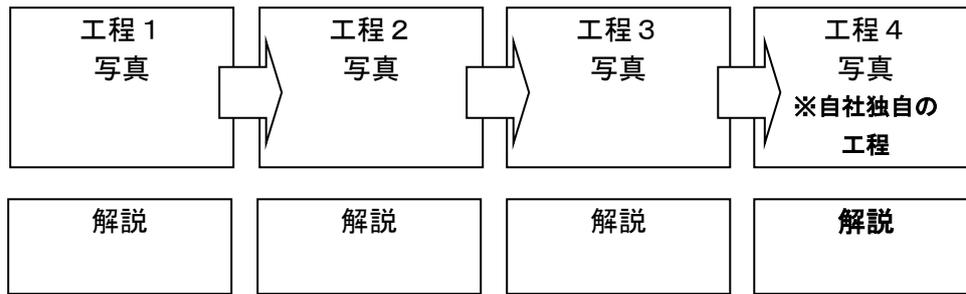
▼独自性を実現する根拠の記載例

- ・製造工程で工夫していること
（例）工具・治具の製作・改良、前処理の追加などの工程の工夫
製造工程で使用する部材・溶剤などの自社開発・製造
自社での金型の設計・製造、修理
- ・生産体制
（例）専門の開発チームの設立、大学や研究機関等との連携・協力、工程の内製化
- ・特許など知的財産権の権利がある場合は、その技術や権利
（例）自社開発した技術の特許取得、他社が取得した特許を使用できるライセンス契約

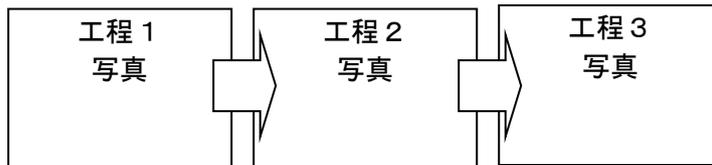
※例 1：工程に独自性がある場合

業界標準や他社との比較をするのに工程図や写真を入れ、各工程の解説を記載します。
その後自社の独自性である工程の解説をし、その工程によりどんな効果（耐久性アップ、コストメリットがある等）があるのかについても併せて説明を記載します。

<当社の製造工程>

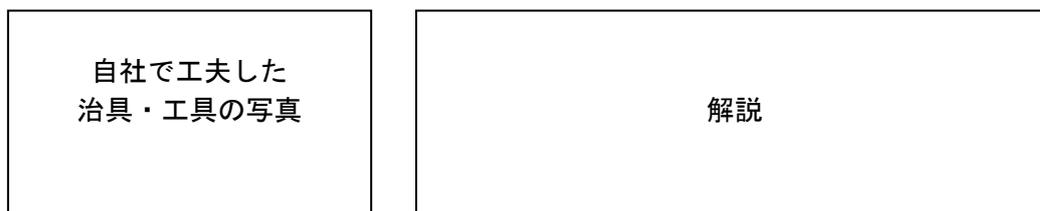


<業界標準の製造工程>



※例2：工具や治具を工夫している場合

自社で工夫（改良・開発）した治具や工具がある場合は、その画像を入れます。
また、どのように工具・治具の工夫を行ったのか、
その工具・治具により、どのような問題を改善できたのかについて説明をご記載ください。



* 補足資料 無 有【No. 】

③ 主要な技術や製品の技術水準について記入してください。

* 技術水準については、例えば精度や性能などの数値を示したり、技術レベルに関わる客観的事実を根拠として示すなど、具体的に説明してください。

- 自社の製品や技術の特徴について、その性能、精度、加工速度、加工コストなどを数字、又は顧客に分かりやすい表現でご記入ください。
ここでは「微細」「高速」「高耐熱」などの抽象的表現は避けてください。
- 製品のJIS等級、従事者の保有する資格、第三者機関による技術認定の取得状況など、顧客に自社の技術水準に関する信用を与える事項をご記入ください。
- 特許リストのコピーや、知的財産の活用に関する補足資料があれば、添付してください。

（記載例）

- ① 自社技術・製品の水準について、他社や従来品業界水準と比較してご記載ください。
※ 比較する際は、数値や表等を用いてご記載ください。

▼ 技術水準の記載例

- ・ 薄さ、強度、サイズ、生産能力（量産等）、不良率など

<加工技術の記載例>

	当社	他社A	他社B
薄さ	3mm	5mm	4mm
強度	8	5	3
公差	±0.5mm	±1.2mm	±1.8mm

②①で記載した技術・水準がなぜ実現できるのか、その根拠・理由（設備や人材など）についてもご説明ください。

▼設備や人材による技術水準の記載例

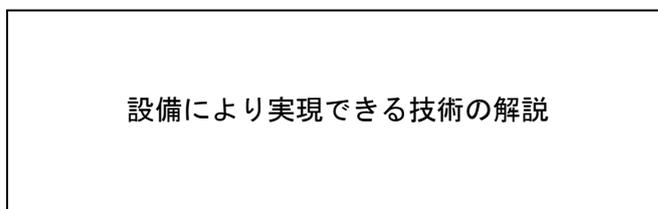
- ・ 同業他社に比べて優位な設備（最新設備や特殊な機械等）の導入
- ・ 高度な技術を持った熟練工（機械では実現できない精度の加工が出来る等）
- ・ 有資格者
- ・ 職員が技能検定委員を務めている

積極的な設備投資を行っているなど、技術水準の根拠について文章と併せて表や図を用いてご説明ください。

<設備の記載例>

※自社の設備の特徴等も併せてご説明下さい。

機器（機種名）	スペック	台数
●●●	φ●mm×L●●●mm	3台
▲▲▲	φ▲mm×L▲▲▲mm	5台



* 補足資料 無 有【No. 】

③大手企業や大学、公設試との共同研究、連携の実施状況について過去5年以内の実績を記入してください。（主要な取組み）

* 技術・製品の研究・開発に関するものに限る。

* 秘密保持契約や共同研究、業務提携などの契約書（覚書なども含む。）を伴う連携に限る。企業名は、匿名表記でも可。

企業名	テーマ	実施期間	進捗状況
㈱〇〇社	■モジュールの製作	平成25年～実施中	平成31年に製品化予定
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 事例については、新しいもの及び特筆すべきものから優先してご記入ください。 </div>			

* 補足資料 無 有【No. 3】

④国や自治体、財団や金融機関の研究開発補助金や委託研究開発資金の獲得状況について過去5年以内の実績を記入してください。

* 技術・製品の研究・開発に関するものに限る。

相手先	補助金名称等	実施期間	進捗状況	補助金使用用途
経済産業省	▲▲研究開発支援補助金	令和2年～3年	試作品 製作中	試作品開発用機械購入

* 補足資料 無 有【No. 4】

⑤今後の技術高度化への取組みについて
 *今後の産学連携や、技術者の採用・育成など、技術開発や技術力向上に向けて行っている取組みについて記入してください。

◆連携＝連携先名、連携内容、目的、連携方法 など
 技術者の採用・育成＝採用分野、採用数、外部研修・訓練の活用、資格取得支援 など
 社内での取組み＝技術改善、技術向上に向けた部局間連携、設備の更新、工場の移転・拡張、内製化に向けた取組み など
 できるだけ具体的にご記入ください。

※貴社の今後の展望に向けて、現在取り組んでいることをご記載ください。
 例) ●●分野への進出を目指し、勉強会を週1回社内で行っています。
 ～目指している。～しようと思っている。のみはNG

* 補足資料 無 有【No. 】

8. QCDに関する事項

①QCDに対する考え方（貴社の基本方針）を記入してください。

(例) 高品質な製品を適正価格で迅速に提供し、顧客満足と信頼を築くことを基本方針とします。

Q (品質)	<p>②各種品質保証・管理に関する認証、認定について、取得しているもので有効期限内のものを□にチェックしてください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ISO9001 などの品質関連のISO認証 <input type="checkbox"/> JISマーク工場</p> <p>※チェックしたものは、認証書等の写しを添付してください。</p> <p style="text-align: right;">* 補足資料 <input type="checkbox"/>無 <input type="checkbox"/>有【No. 】</p>
C (コスト)	<p>③上記②のいずれにも該当の無い場合は、品質保証・管理に関する仕組みを記入してください。品質保証体系図やQC工程図、品質管理規程を作成、運用している場合は添付してください。</p> <p>●不良品の社外への流出や発生の再発を防ぐための、品質管理や保証の組織的な体制と流れについて、具体的にご記入ください。 ●品質管理、保証に関する社内規程類があれば、名称とその内容について簡単にご説明ください。</p> <p>②のいずれにも該当がない場合、③の記入は必須です。 必ず品質保証体系図を補足資料として添付してください。</p> <p>また、自社の品質保証・管理の取組み内容について説明をご記入ください。取組みの他、自社の品質保証の体制等について、取引先の大手企業から表彰されている場合併せてご記入いただき、賞状や認定証等のコピーを補足資料としてご提出ください。</p> <p style="text-align: right;">* 補足資料 <input type="checkbox"/>無 <input type="checkbox"/>有【No. 】</p>
C (コスト)	<p>④見積りや売価の設定、加工原価の把握のための原価計算方法について記入してください。</p> <p>●見積りや製品価格などを決める際の材料費、人件費、製造経費などの計算方法を具体的にご記入ください。記入にあたっては、費用をどのように配分したのか（配賦基準）がわかるようにしてください。 ●見積り原価計算、実際原価計算、標準原価計算、目標原価計算の方法と類似している場合は、それとの類似点に留意しながらご記入ください。 ●原価を算定する方法について、具体的な計算式をご記入ください。</p> <p>また、原価の管理方法（パソコンや原価計算書での管理など）についても、併せてご記入いただき、その方法が分かる画像を貼り付けまたは補足資料としてご提出ください。</p>

(記入例)

※実際の活動状況が分かる写真や資料などを記載または補足資料としてご提出ください。

- ・ 5S、QCサークル、定期的な品質改善会議などの開催
- ・ 設備導入による自動化推進
- ・ 工場の24時間稼働
- ・ バーコード管理の導入
- ・ 自走式倉庫の導入
- ・ 管理システムの導入（品質データ、在庫状況など）
- ・ 多能工化
- ・ 熟練工から若手職員への技術継承（社内研修、ノウハウのデータベース化など）

* 補足資料 無 有【No. 】

9. 人材活用・活躍に関する事項

チェックした場合は、補足資料として、認証や認定していることが確認できる資料を添付してください。

【例】人材育成計画表のコピーや人材育成マニュアル等

人材活用・活躍

①人材活用・活躍についての考え方（貴社）

（例）多様な人材の能力を最大限に活かし、働きやすさを整備し、成長と活躍を支援します。

②人材育成計画に関する以下のものについて認定している場合は、にチェックしてください。

- 人材育成計画
- 職階・職種別研修計画
- 年度研修計画

* 補足資料 無 有【No. 14】

③上記の具体的な取り組み、及び上記以外で人材育成に関する仕組みがあれば、記入してください。

- ②でチェックした人材活躍の取組みについて、ここで具体的にご記入ください。
- 上記のような計画を策定していない場合でも、職務に応じて必要な資格を明示し、取得を奨励する制度やOJT制度を取り入れている、外部の人材育成セミナーを受講しているなど、何らかの人材育成に関する取組をしている場合はご記入ください。

* 補足資料 無 有【No. 15】

④人材活用・活躍に関する国や大阪府の制度で受賞・認定を受けている場合は、にチェックしてください。

- 「男女いきいきプラス」事業者認証制度（受賞年度： R07）
- 大阪府ハートフル企業顕彰制度（受賞年度： 年）
- その他（健康経営優良法人等）（ ）／受賞年度： 年）

※チェックしたものは、認証書等の写しを添付してください。

* 補足資料 無 有【No. 16】

⑤多様な人材（女性、障がい者、高齢者、外国人など）が能力を発揮できるようにする取組みや制度（雇用制度、ワークシェアリング、休業制度、時間外縮減、福利厚生など）を記入してください。

- 取組みを実施している場合は、その手法を簡潔に記入の上、取組みがわかる資料を添付するか、ここで具体的にご記入ください。

- 例）高齢者・外国人の積極的な雇用
- ・ 外国人従業員のための日本語研修の実施
 - ・ 産休・育休取得の推進
 - ・ 時間外の削減
 - ・ 福利厚生として社員旅行の実施

* 補足資料 無 有【No. 17】

⑥過去3年間の平均離職率（ ）%

※離職率＝（正社員退職者数－一定年退職者数）／（期首正社員数－一定年退職者数）：勤続3年以上を対象

